**定例記者会見発言録**

日　　時：令和６年８月29日（木）11時00分～

場　　所：伊達市役所東棟４階　401・402多目的会議室

出　　席：市長、副市長、教育長、総務部長、未来政策部長、財務部長、市民生活部長、健康福祉部長、教育部長、生活環境課長、商工観光課長、生涯学習課長

報道機関：読売新聞社、福島民報社、福島民友新聞社、ＮＨＫ福島放送局

発表項目：市長から下記の内容について、別紙資料により説明

資料１　令和６年伊達市議会定例会第５回定例会議提出議案の概要

資料２　伊達市オレンジフェスティバルを開催

資料３　「おての里きてみ～な」オープン一周年記念イベントの開催

資料４　第36回全国街路事業コンクール受賞記念

「まちの駅やながわ秋まつり」の開催

資料５　伊達市梁川美術館開館30周年記念展

　　　　～水光るまち　彫刻家・太田良平から現在へ～を開催

資料６　アフタヌーンティー・ティールームで伊達市産の

シャインマスカットを使用したスイーツを販売

資料７　福島ユナイテッドＦＣ「伊達市ホームタウンサンクスデー」を開催

資料８　伊達地方在宅医療・介護連携支援センター「伊達さぽ」を開所

《質疑応答》----------------------------------------------------------------

**伊達地方在宅医療・介護連携支援センター「伊達さぽ」を開所**

　　　記　　者　在宅医療介護連携支援センターは、各市町村に元々あったのでしょうか。それとも伊達地方では初めての開所になりますでしょうか。

市　　長　今まで各市町村にはありませんでした。今回、伊達地域として１市３町が連携してこのセンターを設置していこうということにしました。

記　　者　一般の方向けの地域包括支援センターは、各市町村にあるということですか。

市　　長　地域包括支援センターは各市町村にあります。今回は、地域包括支援センターと、医療関係を連携するためのセンターとして設置をします。

　　記　　者　前回の介護保険法改正の時に、2018年の初めまでに在宅医療と介護の連携について、各自治体で取り組むようにという決まりになっていたと思うのですが、開所が今になっているので、ここまでの期間で、2018年頃から伊達市でこの連携について取り組んでおられましたか。

　　健康福祉部長　これまでなかなか伊達市単独で行うことは難しかったものですから、伊達市と伊達郡を合わせて特に医師会との契約もございましたので、広域で実施をするということで、具体的には令和３年から県の医師会を通じていろんな情報を収集した中で、先進的に取り組んでいるところを調査させていただき、令和３年頃から検討を始めました。

その後、昨年から、具体的に設立検討に向けまして検討委員会や協議会などを立ち上げまして、今年４月に契約ということになりました。

　　　記　　者　2018年以降は、この開所以外で何か取り組まれたことはありますか。

　　　健康福祉部長　この間は特別何かこうしたということはありませんが、地域包括支援センターが各市町にありますので、市民の相談につきましては、包括支援センターを中心に連携を強化してきました。また、今回につきましては専門職との連携や、各機関との連携をしっかりしていくということで、在宅支援センター、連携支援センターを立ち上げていくというところで、地域の中でしっかり在宅ケアを進めていくというところで進めてきました。

**アフタヌーンティー・ティールームで伊達市産のシャインマスカットを**

**使用したスイーツを販売**

記　　者　販売される首都圏15店舗というのは 販売先は全て関東圏内もしくは関西圏などになるのでしょうか。東北地域での販売はありますか。

商工観光課長　首都圏は東京都が12店舗、埼玉県が1店舗、千葉県が１店舗、神奈川県が１店舗の合計15店舗となります。

記　　者　今回の商品については、お店での店頭販売のみで、ネット通販での販売などはないということでしょうか。

商工観光課長　店頭販売のみでありまして、ネット販売は行っておりません。

記　　者　伊達市とアフタヌーンティーとのコラボみたいなものという風に理解しているのですが、今回こういった商品が開発され、販売される経緯と言いますか、アフタヌーンティーさんの方から例えば市の方に要望があったのか、それとも違う何かがあったのかを教えてください。

市　　長　伊達市では、首都圏における市農産物等のプロモーション事業を行っておりまして、その委託業者を通し市農産物と販売業者のマッチングをお願いしていたところ、今回のシャインマスカットを使用したお菓子の販売ということになりました。

記　　者　全国的な飲食チェーンと伊達市がコラボする共同の取り組みは、アフタヌーンティーとの取り組みは初めてとなりますが、他の飲食チェーンとの同様の取り組みはありますでしょうか。

市　長　お菓子関係で言うと初めてです。

その他の飲食関係、例えば伊達鶏を使ったところがあるかどうかは、今資料としてないので調べていきたいなと思います。

**令和６年伊達市議会定例会第５回定例会議提出議案の概要**

記　　者　補正金額17億円とありますが、お示しいただいた２つは予算規模としては少額なのですが、大きな割合を占めるのは子ども手当ての拡充などになるのでしょうか。

市　　長　補正金額が大きいものは、令和５年度事業において精算をした結果、それを財政調整基金に積むというのが大きなものです。財政調整基金を使って令和５年度の当初予算を編成しておりますが、その結果として令和５年度の事業費にプラスであった財政調整基金収支がプラスだった分を財政調整基金に戻すというのが大きな割合です。

**その他**

**■阿武隈急行について**

記　　者　先日、協議会もありましたが、維持のあり方についても、温度差があるというようなことも表明しています。改めて、市長としての阿武隈急行の望ましいあり方、どのように維持していくお考えかをお聞できますでしょうか。

市　　長　阿武隈急行は、通勤通学の足でもあり、また多くの皆さんに伊達市に訪れていただくための公共交通機関として重要な位置づけになっていると考えております。私としましては、これからもこの阿武隈急行が運営されるよう、しっかり支援をしていきたいと思っております。これは福島県の中としても一致した考えでございます。

　阿武隈急行は福島県ばかりではなく宮城県にも通じておりますので、宮城県側の考え方がまだはっきり示されていないということですので、福島県側の伊達市としましては、その考えを示された上で、今後どうしていくかという検討をしていくことになると思います。

記　　者　宮城県と繋がっているということは、大事なことなのでしょうか。

市　　長　宮城県側に通っている方もいますし、また宮城県側から伊達市に訪れてくれる方もおりますので、 そういう意味では宮城県側と繋がっているというのは非常に重要だという風に思っております。

ただ、宮城県側の考え方もありますので、私が良い悪いということで判断申し上げるものではないのかなと思っております。